

早生温州ミカンにおける 埋め込み式根域制限マルチ栽培法

早生温州ミカンの慣行栽培において、気象や園地条件によっては十分な品質向上効果が見られない場合があります。佐賀県果樹試験場ではマルチの効果を高めて安定して高糖度果実を生産するため、透水性防根シートを用いた埋め込み式根域制限マルチ栽培法を開発したので紹介します。

☆技術の概要

1. 埋め込み式根域制限マルチ栽培は、透水性防根シートで深さ約 30cm、幅約 1.5m に制限された畝内に樹間約 1.5m で植栽します（土壌容量：約 800L/樹、図 1）。土壌容量に対し 3割程度の有機物を混和した培土で、高さ 10cm 程度の畝を形成します。
2. 現地圃場における収穫時の果実品質は Brix12 以上で 7割程度のブランド果実が生産されています（表 1）。

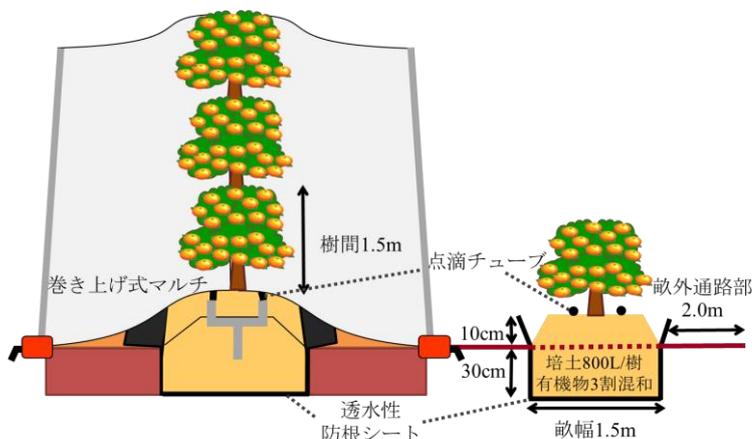


図1 埋め込み式根域制限マルチ栽培の概要

表1 現地圃場における果実品質（2015～2018）

収穫時		出荷時
糖度 (Brix)	酸含量 (%)	ブランド率* (%)
12.7±0.4	1.14±0.13	72.3±6.3

*Brix12 以上かつ酸含量 1%以下の果実の割合

☆活用面での留意点

1. 本成果は玄武岩質土壌の現地圃場に植栽された 10 年生宮川早生（2018 年時）において、7 月上旬にマルチ被覆、11 月中旬に収穫した結果です。
2. 列間は 3.5m（うち通路 2m）で、植栽本数を約 180 本/10a としています。巻き上げ式マルチを通路まで完全に被覆し、気象条件により開閉を行います。灌水は点滴チューブを用いて行っています。
3. 水田転換園など地下水位の高い園地では本栽培法ではなく、根域制限高畝マルチ栽培法を導入してください。
4. マルチ被覆の開始は 7 月上中旬を基準とします。また、土壌乾燥が促進されるため、灌水は必須です。灌水は 10 日間隔で 20L/樹を基準としますが、果実肥大や葉巻程度の状況などを指標に、樹への水分ストレス付与程度を確認しながら調整してください。
5. 詳細については佐賀県果樹試験場・常緑果樹研究担当（0952-73-2275）までお問い合わせください。

（農研機構果樹茶業研究部門 研究推進部 果樹連携調整役 大崎 秀樹）